

自己評価および外部評価票

「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・グループホームだけでなく法人全体として地域交流推進委員会を立ち上げ、地域との交流、地域への貢献について協力しながら行っている。 ・管理者は職員に対し地域交流について説明、実践してもらっている。	・法人全体で理念の地域への発信を強めている。地域交流推進委員会が2カ月に一度開催され地域交流について検討されている。ボランティア活動では資源回収や文化祭への参加により地域密着の意義を実践している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	小中学校との交流、地域の文化祭への参加、夏の子供みこしは毎年グループホームの駐車場が休憩の場所になっており入居者の皆さんと交流の場になっているが日常的となるとなかなか行なえていない状況である。	・地域交流推進委員会の立ち上げにより、諸区、水明小学校の運動会等の行事、芦原中学校での認知症の講演、地区消防団の視察受入、子どもみこしや資源回収についての協力等地域の一員として積極的に交流しようと努力している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年中学校のボランティア体験学習について学校より講師依頼を受け認知症についてや対応についてなど今までの実践を交えて1学年全員に話している。又、地域の資源回収の協力も行なっている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では毎回グループホームの運営状況報告を行い特に火災などの災害時や地域交流について意見を頂きサービス向上に活かせるようにしている。	・直近では22年7月6日、10月18日に開催され GHの近況 避難訓練の様子 地域交流等の取り組みについて話し合っている。前区長、区長、地域包括センター、小諸市福祉課、前民生委員、家族が参加している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に1回の市のサービス調整会議の中のグループホーム部会(市内グループホーム管理者、市高齢福祉課担当者、包括支援センター担当者)に出席し、情報交換、事例検討を行ないアドバイスを頂いている。又、入退居情報の連絡を取ったり不明な点は必ず確認するようにしている。	・小諸市との協力関係を持って実施している。小諸市在宅サービス調整会議のGH部会との連携により協力関係を築いている。 ・近隣の松本市との連携によりGHの見学を実施している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	建物の構造上玄関の施錠をせざるをえないがそれ以外の身体拘束は行なっていない。言葉遣い、声のかけ方などについて接遇目標を掲げながら気を付けるようにしている。	・身体拘束をしないケアについて研修等により周知している。医学上、けが等の恐れがある場合に限り家族等の同意を得てケアを実施する手順がある。言葉使いについてはロールプレイにより人権に配慮した接遇を行っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については職員間で学習会の機会をもち資料の読み合わせをして虐待について理解を深めホーム内での虐待がないよう防止に努めている。		

グループホーム柳橋(第1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見を活用されている方もおり、司法書士の先生より成年後見制度についての学習会資料を頂き学習会を行なった。必要性のある方については御家族に制度の説明をするなどの支援をしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には全ての書類について説明し、御家族の不安や疑問点を出して頂き再度説明を行ない理解、納得等して頂けるよう努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の方からの要望に対してはすぐ対応を考えるようにしている。又、御家族からは面会時様子をお話して何か要望等がないかをお聞きするようにし対応を考えるようにしている。	平成22年10月22日に家族会を開きアンケートを実施したり、家族との面談により意見や要望を反映させようとしている。その内容は家族との面談記録に残されており、運営に反映されている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人で職員1人1人に対し「ひらめきノート」を作成しどんな細かい事でも良いので提案してもらい改善できる事から改善していくようにしている。又、月1回の職場会議に施設長も出席し職員の意見を直接聞くようにしている。	「ひらめきノート」による提案が定期的にされ組織が日常業務の活動を検討している。庭の手入れや勤務体制、施設の改善について話し合われており運営に関する職員の意見や提案を反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職位、職責、職務内容等に応じた任用の要件を定めた。又、処遇全般、教育・研修、職場環境の改善に取り組んでいる。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症に関する研修会への参加の機会を確保したり日々のケアの中で入居者の状態の理解、ケアをどのようにしていけば良いかのアドバイスをしケアに反映できるよう努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	佐久圏域グループホーム連絡会に加入し圏域内のグループホームで相互交流訪問を実施し職員の研修の場となりケアの参考にする良い機会となっている。又、年に2回学習会も計画し大勢の職員が参加している。		

グループホーム柳橋(第1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の方向になった段階で管理者が御家族や居宅ケアマネージャーから出来るだけ細かく本人の状態をお聞きするようにしている。又、本人とも面接し状態把握はもちろんの事、困っている事、不安な事などもお聞きし入居後のケアにつなげるようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に御家族より今までの経緯や本人の状態を伺いながら困っている事、不安な事、要望などもお聞きし、それを職員全員が共有し介護に当たるよう努めている。入居後も来訪時は御本人の状態をお話したり、要望を伺うようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みの段階で本人の状態を伺い専門医の受診、治療が必要と思われた時は専門医の紹介と、どのように受診したら良いかなどお話しするようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみ、掃除、食事の準備、片付けなど本人の出来ることを見極め一緒に行うようにし必ず感謝の言葉を伝えるようにしている。ただ、まだどうしても排泄面での援助を優先させてしまうことも多くある為少しずつでも改善していきたい。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	頻繁に来訪して下さる御家族は他の入居者の方にも気軽に声を掛けて下さりありがたく思っている。又、散歩に連れ出して頂くなど協力頂いている。面会時は本人の状態をお話したり今後の方向性など話し合いを持つようにしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族に年賀状、残暑見舞いを送る支援をしている。又、遠方の兄弟さんから手紙を頂いた時など本人が塗った塗絵や写真などお送りしたり本人と兄弟さんが文通できるよう手紙を書く支援をしている。	・馴染みの人との年賀状、残暑見舞い等の文通、馴染みの美容院の利用、お墓参りなどの支援をしている。 ・家族や知人の訪問については自由に面会できるよう宿泊可能な居室を用意し工夫している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者同士は何かお手伝いをして頂く時も一緒にして頂けるよう声を掛けたりしている。どうしても気の合わない場合トラブルにならぬよう距離をおいて頂くなどの対策をとるように努めている。		

グループホーム柳橋(第1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院のため退居された御家族から入院中の心配事の相談や退居後どんなサービスを受ける事が出来るのかなどの相談の電話を頂き対応したり、入院先へお見舞いに伺う事もある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の訴えや行動により本人の気持ちを出るだけ理解しケアに活かせるよう努めている。重度の方に関しても表情や行動により理解するよう努めている。又、専門医にも相談しながらケアについてのアドバイスを頂き全員で共有し本人に合った支援が出来るように努めている。	・本人の要望をスタッフとの対話や家族面談で聞きとりその要望を支援している。リ-ダーカンファレンスによりその内容を検討し把握に努めている。申し送り事項に従って個人別に本人本位の支援を行っている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に御家族、担当居宅ケアマネージャー、施設からの方は施設での生活の様子など出来るだけ多くの情報を頂くようにしている。又、入居後も御家族や知人より今までの生活など色々な情報を伺うようにし、職員が共有できるようにしている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者1人1人のその日の機嫌の様子、身体状況の観察に努め、その時の様子によりお手伝いして頂いたり、無理強いしないようにするなど調整するようにしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各階のリーダーでカンファレンスを行ない、それをふまえた上で各階でカンファレンスを行ない職員の意見、アイデアを出してもらい介護計画に盛り込むようにしている。又、御家族、専門医、担当ケアマネージャーとも必要に応じ話し合いを持ちケアに繋げるようにしている。	・ユニットごとに本人や家族の思いや意見を生活支援計画書に反映させている。各階のリーダーカンファレンスや各階で行われるカンファレンスでは家族、専門医、担当ケアマネージャーとのコミュニケーションがよく取れている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カーデックスを利用し職員全員がケア内容を共有できるようにしている。記録は色分けして記入したり状態変化のあった場合などは特に詳しくに記入するようにし、情報を共有できるようにしている。又、朝夕の申し送り時にも職員でアイデアを出して実践している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のその時の状態により当施設で対応を継続した方が良いか、担当医、御家族とも相談をして本人にとって一番良いサービスが受けられるように対応している。		

グループホーム柳橋(第1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区消防団に年1度視察して頂き、入居者や施設内の様子を理解して頂けるようにしている。同じ区内の方に緊急通報装置に電話番号を登録させて頂き避難訓練時協力を頂くなど万一の場合の出動の有効性を高めている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診は必ず看護師が付き添い、状態の報告をするようにしている。又、本人の状態により専門医の受診が必要と思われた場合御家族に相談し受診を進めている。又、身体的にも重度化した場合今後の方向性など医師より説明して頂き理解していただけるよう支援している。	・かかりつけ医は本人及び家族の希望を尊重し支援している。また認知症専門医とも併せて利用者を支援する体制が構築されており適切な医療を受けられる環境を整備している良い事例として評価できる。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員から看護師へは少しの変化でも報告があるので、その都度対応でき必要に応じて受診するようにしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はグループホームでの生活を情報提供書で入院先に詳しく伝えるようにし、少しでも環境変化におけるダメージが少なくなるよう願っている。又、出来るだけ来院し状態確認し早期退院に向け相談するようにしている。同法人の診療所へ入院する機会が多く状態の確認、主治医への確認がしやすい環境であるが、他の病院へ入院する場合など「認知症」という事から対応が難しい場合もある。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	『重度化した場合における対応にかかわる指針』を作成し入居時御家族にもお渡しして説明している。又、重度化した場合主治医、御家族、看護師でどのようにしていくか話し合い職員に対しても方針を説明し状態に応じた対応をとるようにしている。	・重度化した場合の対応については準備されている。現在看取りになる事例は発生していない。グループにある医療施設と理念を共有しており連携がとられている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回小諸市グループホーム部会主催で救命講習を小諸消防署で実施し参加している。又、上級救命講習に参加している職員もいる。内部研修としてダミー人形を利用しアンビューバックの使い方の実施を行なった。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今まで避難訓練で入居者全員の避難を行なった事がなかったため今年は毛布のタンカで2階入居者を職員6人がかりで避難し全員が外に避難して頂く事ができた。全員避難をして頂いた事で多くの課題が見つかり今後の災害対策の検討に役立てていきたい。	・9月に避難訓練を実施している。全員の外への避難誘導などより実践的な訓練を実施し、夜間想定も予定しており課題についても検討している。 ・スプリンクラ - の設置(2月)、消防の視察受入、電気保安の研修等安全に配慮し活動している。	

グループホーム柳橋(第1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人全体で月に1度接遇委員会を開催し各部署毎に毎月言葉遣いについて目標を設定し実施している。又、入居者1人1人にあった声かけに気を付け対応し、特に職員と同姓の入居者に対しては細心の注意をはらうようにしている。	・接遇委員会では口-ルプレイにより、食事介助等、言葉がけについて一人一人にあったものを実施している。また佐久グループホーム連絡会で研修を実施している。トイレはカ-テンによりプライバシーに配慮している。	・法人規約により個人情報の管理は適切に実施されています。グループホーム柳橋のHPでは法人の他の施設で明示されている方針が掲載されていませんでしたので明示されることを希望します。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	重度の方に対しては1日の生活の中で、本人の言動や表情から何を希望されているのかを推測し、それに沿うように努めている。又、軽度の方に対しては会話の中から本人の希望や思いを引き出すような声かけをするよう心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お手伝いやレクリエーションについては声掛けをしても本人が嫌がる時は無理強ひせず本人のやりたい事をして頂くようにしている。排泄介助が必要な方に対しても拒否が強い場合などは少し時間を置いたり、別の職員が対応したりするようにしている。ただし、職員の業務の多さからそちらを優先してしまう事もあり、今後検討が必要であることもあるが、出来るだけ本人のペースで過ごして頂けるよう努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	レクリエーションの中で外出する時など普段より少しお洒落をしたり、女性にはお化粧品のお手伝いをしている。男性は毎日髭剃りの援助をしている。理容に関しては出張にてホームでカットして頂いている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえをして頂いたり、台拭きやお箸配りなど食事の準備に関わって頂いたり、食後の食器洗い等も職員と一緒に頂いている。又、食事中は静かな音楽を流しつつ食事を取って頂けるようにしたり、食事中も楽しい会話をもてるように努めている。又、認知症の状態によりその方にあった食器を使用し食べやすいよう工夫するようにしている。1人ずつのお膳を購入したところ台所まで片付けてくださる方が増えた。	・献立については当日利用者の希望等を聞いて用意している。庭で作った野菜や近所の農家からいただいた食材を利用している。食事の準備や片付けは能力を活かした食事になるよう工夫している。きざみ食やとろみを付ける場合がある。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量のほかに水分摂取量のチェック表も付け加え1日の水分量が十分になるよう気を付けている。又、入浴直後は必ず水分を取って頂くようにしたり、なかなか飲まない方に対してはトロメリンでゼリー状にして摂取して頂くようにしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後3回行っており、歯ブラシを痛がる方にはスポンジブラシを使用したり認知症の進行により、うがいが出来なくなっている方にはハミガキティッシュを使用し口腔内を清潔に保つようにしている。		

グループホーム柳橋(第1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	重度化によってリハビリパンツや尿取りの使用の方も増えてきているが、出来るだけ失敗、失禁の無いよう本人の行動を観察し落ち着きの無いときは声をかけを誘導している。御自分でトイレに行かれる方に対しても失敗が無いか確認している。又、身体的に重度な方でもトイレで排泄して頂くよう努めている。	・トイレで自立した排泄ができるよう排泄の記録や観察をもとに支援している。リハビリパンツや尿取りの使用については家族と相談して対応している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1ヶ月の排便表を作成し排便の間隔を把握し便秘傾向の方には運動を促したり水分を多めに飲んで頂くなど対応しているが、それでもダメな方には下剤を飲んで頂くなど、状態に合わせて対応している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日行っており、1日3人～4人位のペースで週に2～3回入浴して頂けるようにしている。又、便失禁時などは必要に応じ入浴して頂いている。入浴前に拒否がある方も声掛けの工夫やタイミングをずらしながら入って頂くようにしている。	・入浴は毎日実施され週2～3回実施されている。入浴時間は利用者の希望を聞きながら実施されている。夜間の入浴は実施していない。個人の使い慣れたシャンプーを使うことができる等の工夫がされている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前の生活習慣やその日の体調によりお手伝い等は無理強いわず休んで頂くようにしている。又、季節により室温に注意し調整するようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が医師の処方と指導のもと介護職員に薬の十分な説明をし内服の際には必ず名前と確実に内服したかを確認し誤りが無いようチェック表を作成しチェックしている。又、内服薬説明書を各自のファイルにまとめ職員がいつでも確認できるようにしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴の中から趣味や好きな事の把握に努めるようにしている。絵が好きな方には塗絵などをして頂き、リビングや廊下に貼って他の入居者の方にも楽しんでいただけるようにしている。又、手芸の得意な方には雑巾縫いをお願いして沢山作って頂いている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員の手が足りず普段はなかなか外へお連れ出来ないことが多いが、小中学校の交流の時など一緒に散歩に出掛けたり、季節ごとの計画を立て、御家族にも声をかけ一緒に参加して頂くようにしている。(お花見、毎祭り、夏祭りなど)又、小学校の音楽会、運動会、中学校の文化祭にも参加させて頂き参加に当たっては学校の協力、支援を頂いている。	・近くにはワイン工場があり散歩に出られるよう支援している。小中学校や季節ごとに家族と一緒にいるいろいろな行事に参加できるよう支援している。	・日常の外出支援についてはいろいろな支援を行っています。家族からの要望もありできる範囲で外出支援ができるよう希望します。また前庭での野外活動が更に進むことを期待します。

グループホーム柳橋(第1ユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在のところ本人にお金を所持して頂いたり、使って頂いている方がほとんどいない状況で、今後どのように支援していけば良いか検討が必要であるが、一緒に買い物に出掛けた際には支払いをして頂くなどの援助に努めていきたい。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の兄弟さんと手紙のやり取りが出来るよう手紙を書く支援をしたり、本人の写真や作品なども一緒に送るようにしている。 又、全御家族に年賀状や暑中見舞いなど季節の便りを送るようにしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは季節を感じて頂けるよう飾りを工夫したり、コタツを使用したりしている。室内の温度、湿度に気を付け加湿器やバスタオルを濡らすなど対応している。又、トイレの鏡が大きすぎて、鏡現象で混乱してしまい、なかなか排泄行為に移れない方も居る為、鏡を隠す工夫をしている。	・木の質感を活かした玄関、廊下、リビングの共用空間となっており利用者がおちつく空間となっている。また自然採光、眼にやさしい蛍光灯を取り入れ環境に配慮している。ソファなどの調度品は家庭的雰囲気ができるよう工夫されている。加湿器により湿度についても配慮している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファをいくつか置くことで入居者の方がそれぞれ気に入った場所に座って外を眺めたり、他の方の様子を眺めたりされている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	歩行不安定な方も多く居室にいるいるな物を置くこと転倒の危険もある為なかなか物をおく事が出来ない場合もあるが、写真や絵など出来るだけ飾るようにしている。又、御家族が来訪時花を持参して飾って下さる方もいる。今後それぞれの方の事情等を御家族とも良く話し合いながら居心地良く過ごして頂けるスペース作りを考えていきたい。又、趣味を活かした作品なども飾り本人にも満足して頂けるよう努めている。	・全居室が南向きとなっている。部屋の暖房はパネルヒーターになっており居心地よい居室の配慮がされている。 ・部屋8.5畳と広く家具、洗面台、鏡が設置されている。日常写真が飾られ家庭的雰囲気がある。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	尿意が分かりトイレに行かれる方がトイレの場所を認識できるよう『お便所』と大きく貼紙をしたり居室入口に木彫りの表札を掲げ自分の居室を認識出来るようにしているが、表札が認識できず他の居室に入ってしまう方も居る為、居室の戸に名前を大きく書いて貼り、認識して頂けるよう工夫している。		